

画像電子学会 / 第 38 回 VMA 研究会

凸版書体の改刻と 電子化時代の文字

凸版印刷株式会社

田原恭二

kyoji.tahara@toppan.co.jp

電子化時代のニーズを満たす
新しいコンセプトの文字

■凸版文久体ラインナップ（開発予定を含む）

本文用

リリース済み

凸版文久明朝 R

23,058 文字（Adobe-Japan1-6）

2014 年〈冬〉

凸版文久ゴシック R

23,058 文字（Adobe-Japan1-6）

2016 年〈春〉

凸版文久ゴシック DB

23,058 文字（Adobe-Japan1-6）

見出し用

2015 年〈春〉

凸版文久見出し明朝 E

9,354 文字（Adobe-Japan1-3）

2015 年〈冬〉

凸版文久見出しゴシック E

9,354 文字（Adobe-Japan1-3）

空港のとなりが
空港のとなりが
空港のとなりが

空港のとなりが
空港のとなりが

※ 上記デザインは一部試作版の書体を含みます。仕様、デザインについては変更になる可能性があります。

■書体見本（明朝）

三愛東

靈鬱国

今鷹永

力袋酬

凸版明朝 W3

三愛東

靈鬱国

今鷹永

力袋酬

凸版文久明朝 R

■書体見本（明朝）

いろは

にほへ

ちりぬ

るおわ

凸版明朝 W3

いろは

にほへ

ちりぬ

るおわ

凸版文久明朝 R

■書体見本（ゴシック）

三愛東

靈木鬱国

今鷹永

力袋酬

凸版ゴシック W3

三愛東

靈木鬱国

今鷹永

力袋酬

凸版文久ゴシック R

■書体見本（ゴシック）

いろは

にほへ

ちりぬ

るおわ

凸版ゴシック W3

いろは

にほへ

ちりぬ

るおわ

凸版文久ゴシック R

凸版書体について

■凸版書体の歩み

- 1956 年 にへいよしさぶろう 二瓶義三郎氏により凸版書体誕生
- 1970 年 CTS 化（活字からビットマップへ）
- 1990 年 アウトライン化（URW++ IKARUS 導入）
- 2005 年 OpenType 化（InDesign 版 CTS）
- 2012 年 凸版文久体へ（ハイブリッド対応）

■ ペンで書いたような手書きの雰囲気を意識したデザイン

きんぎょ

秀英明朝 L

きんぎょ

ヒラギノ明朝 W3

きんぎょ

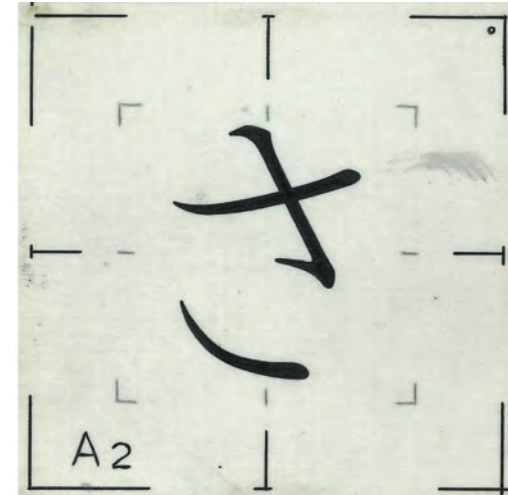
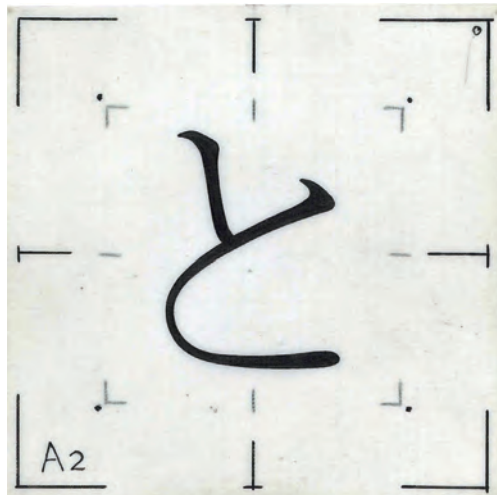
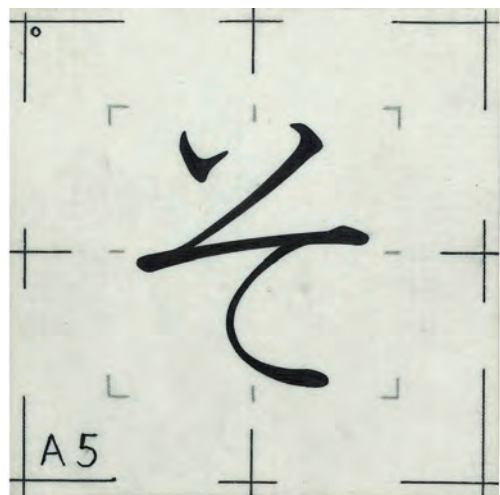
凸版文久明朝 R

■ 二瓶義三郎氏の時代 1950-



所蔵：印刷博物館

■二瓶義三郎氏の時代 1950-



所蔵：印刷博物館

■二瓶義三郎氏の時代 1950-



凸版書体は、二瓶義三郎氏^{にへいよしきさうろう}によって、金属活字として一九五六年（昭和三十一年）に設計され、書籍をはじめとする多くの印刷物で使われてきました。

「よみやすき」とは、一人一人の個人的な感覚ですが、「文字」によって情報の咀嚼^{そしやく}が行われる以上、私たちは無意識に文字のデザインに影響を受けています。

凸版書体もこのような前提をふまえ、「文意を受取りやすく」「見栄えがよく」「子供が間違っって字を覚えないうように」等々、さまざまな想いを込めて作られています。

■ コンピュータ組版の幕開け 1970-

大型コンピュータ



磁気テープ



紙テープ



ジョブコントロールカード



■ コンピュータ組版の幕開け 1970-



原稿修正の作業風景

■ 日本の書籍新刊点数の推移

年	新刊点数
1958 （昭和33年）	11,693
1959 （昭和34年）	11,614
1960 （昭和35年）	11,173
1961 （昭和36年）	11,476
1962 （昭和37年）	10,642
1963 （昭和38年）	12,157
1964 （昭和39年）	13,928
1965 （昭和40年）	14,728

年	新刊点数
1966 （昭和41年）	15,808
1967 （昭和42年）	17,460
1968 （昭和43年）	17,644
1969 （昭和44年）	18,487
1970 （昭和45年）	19,226
1971 （昭和46年）	19,518
1972 （昭和47年）	20,760
1973 （昭和48年）	20,138

出典：日本著者販促センターサイト

■凸版書体の変遷

1956 年

活字



1970 年

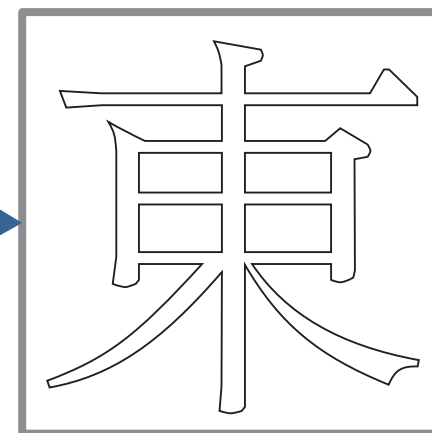
ドットフォント



100 × 120

1990 年

ベクトルフォント



15000 × 15000

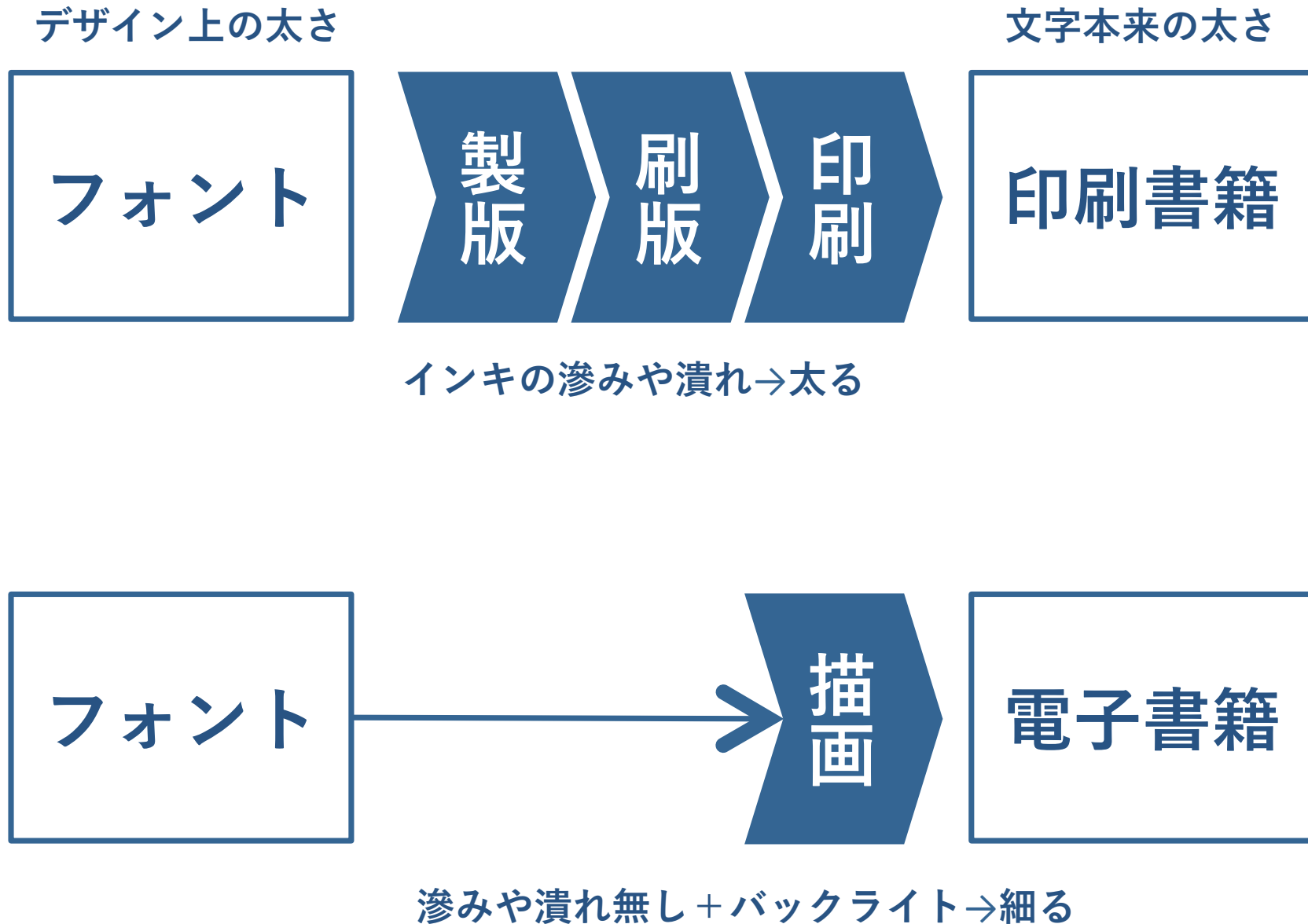
凸版文久体®

書体名の凸版文久体には、文字による情報表現に永久に関わって
いきたいという、私たちの思いを込めています。

■凸版文久体の開発にいたる問題意識

- 長い変遷の中で劣化したデザイン
- ハイブリッド対応

■ フォントから見た印刷物とデジタルデバイスの違い



■文字デザインコンセプト

- ① 読みやすく、水や空気のように邪魔にならず、身近に感じる書体
- ② 欧米の慣習に捕われず、**日本ならではの書体デザイン**を目指す
- ③ 書体デザインは凸版書体の伝統を引き継ぐ
- ④ 印刷物だけではなく、**スクリーン表示**として使われることも含め、日本語の未来の書体を意識する
- ⑤ 本文用は**学校教育で接する（手書きの雰囲気がある）文字の骨格を意識したデザインにする→親しみやすさ**
- ⑥ 見出し用は大きく使われることを意識した骨格で、主張がはっきりし、本文との相性がいいデザインにする
- ⑦ **明朝は縦組をゴシックは横組を重視**して、文字固有の大きさや形が見えるデザインにし、抑揚をつけて、長文を読むリズムを演出する
- ⑧ **線の運びは運筆の流れを意識し、ディスクレシア失読症などへの配慮もあわせ、記号的ではなく身体的なデザインにする**
- ⑨ デザインを**画一的に揃えず適度に差を見せる**ことにより、活字時代のアナログの雰囲気を残し、可読性への配慮を行う

■読みやすいとは

私たちは、日本語の長文を読んで、
文意が受け取りやすい書体を読みや
すい書体と定義して、凸版文久体の
開発を始めました。

そろえすぎない

■手書きの雰囲気がある骨格を意識したデザイン ①

そとやさき
すすむくん
ベルマーク

小塚明朝 R

そとやさき
すすむくん
ベルマーク

凸版文久明朝 R

■手書きの雰囲気がある骨格を意識したデザイン ②

凸版文久ゴシック R

そとやさき
すすむくん

ヒラギノ角ゴ W3

そとやさき
すすむくん

■本来の文字の大きさや形を見せて読むリズムを演出 ①

〈漢字〉



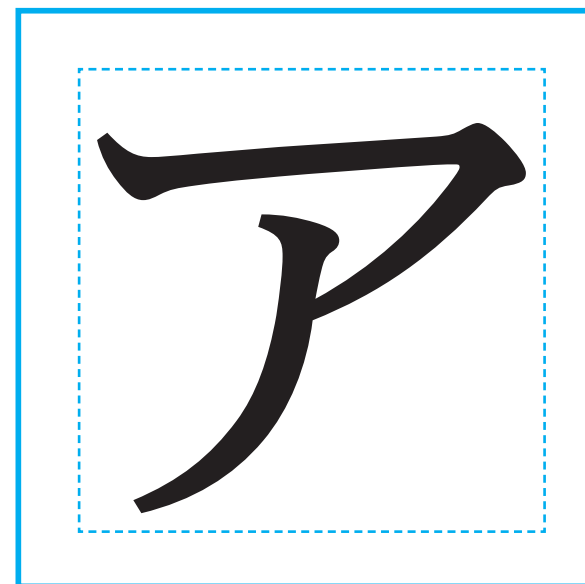
93%

〈ひらがな〉



85%

〈カタカナ〉



80%

例) 凸版文久明朝 R : 漢字は大きく、仮名は小さく

- 本来の文字の大きさや形を見せて読むリズムを演出 ②
- 横組を重視するゴシックの工夫 ①

ラインを重視した従来のゴシック体

日本からの飛行機がホノルル空港に降り立つと、
いつも、ワイキキの海に臨む淡いピンク色に塗



リズムを重視した凸版文久ゴシック

日本からの飛行機がホノルル空港に降り立つと、
いつも、ワイキキの海に臨む淡いピンク色に塗



- 本来の文字の大きさや形を見せて読むリズムを演出 ②
- 横組を重視するゴシックの工夫 ①

君釣りに行きませんかと
赤シャツがおれに聞いた

新ゴ L

せし

君釣りに行きませんかと
赤シャツがおれに聞いた

凸版文久ゴシック R

せし

■横組を重視するゴシックの工夫 ②

ひとりきりのよる
キッチンタイマー

小塚ゴシック R

り

ひとりきりのよる
キッチンタイマー

凸版文久ゴシック R

り

■横組を重視するゴシックの工夫 ③

- 寄り引きを少し下に設定

あいうえお

- 左ハライは横に向けるように

あ あ う う ち ち め め

- 横線は水平方向に近づける

け け さ さ た た ち ち

■画一的に揃えない

例1 敢**倣****噉**瞰

例2 佺詮詮𨔵𨔵𨔵**拴**栓

例3 **埒**将醬獎蒋**鏘**

例4 仇訕𨔵軌**汎**钏

例5 老鮭**佬****姥****佬****姥****佬**銕耄耄耄耄耄

■ルビ文字

正音

ぴぐゆ よ あ お

ルビ用字形

ぴぐゆ よ あ お

ルビ用字形

ね
も
ゆ
ぐ
へ

正音

ね
も
ゆ
ぐ
へ

小さいサイズで使うルビは、ツブレや埋没を防ぐために明瞭をデザインに改良し、濁点・半濁点を大きくするなどして視認性も向上させています。

■ アルファベット（明朝）

凸版明朝 W3

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789 fififfiff

凸版文久明朝 R

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789 fififfiff

- クラシックなフォルムで、仮名と同様に手書きの雰囲気を持たせる
- 仮名の起筆・打ち込みと合う、しっかりとしたセリフ
- セリフなどのエレメントはモダンな印象に
- クラシックとモダンを併せ持ち、幅広いコンテンツをカバーするデザイン
- xハイトによって和欧文のバランスを調整
- カウンターの大きさをしっかり確保して明るく軽快な印象に
- 和文との濃度バランスや強調具合をウェイトで調整（少し強め）

■ アルファベット（ゴシック）

凸版ゴシック W3

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789 fiflffiffiff

凸版文久ゴシック R

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789 fiflffiffiff

- 明朝とほぼ同じ骨格イメージで揃えて親和性を高くする
- 仮名の個性的で力強い線画との相性を考慮し、スラブセリフを設計

■約物

秀英明朝 L

そうですね (笑) 。

筑紫明朝 RB

そうですね (笑) 。

凸版文久明朝 R

そうですね (笑) 。

秀英明朝 L

、 。 , . @ ・ ! ? * { () }

筑紫明朝 RB

、 。 , . @ ・ ! ? * { () }

凸版文久明朝 R

、 。 , . @ ・ ! ? * { () }

■記号類

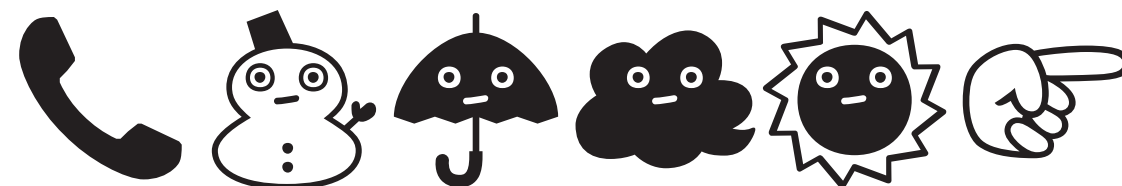
小塚明朝 R



ヒラギノ明朝 W3



凸版文久明朝 R



筑紫明朝 RB



秀英明朝 L



■書体ファミリー考え方

◎前提：日本語レイアウトの特徴

一般的に欧米と違って縦組と横組がある。また、漢字・ひらがな・カタカナ・算用数字・欧文・記号約物類等、違った設計の文字が混在する

このような前提を踏まえて考えると、日本語では欧米のように本文と見出しの骨格をファミリーとして統一することがあまり意味を持たないと考えており、凸版文久体ファミリーでは「書風としての統一感」を意識し、骨格は必要に応じてファミリー内で変化してよいとしています。

■必要に応じて骨格を変える。書風としての統一感を持たせファミリーと呼ぶ

東国永酬愛
鷹袋三霊今
あいいうえお
ホームラン

凸版文久見出し明朝

東国永酬愛
鷹袋三霊今
あいいうえお
ホームラン

凸版文久明朝 R

■ IVS 対応 (Adobe-Japan1 IVSes & 89 Standardized version 09/07/2013)

U+845B

葛

E0100

CID+1481

葛

E0101

CID+7652

U+8FBB

辻

E0100

CID+3056

辻

E0101

CID+8267

U+9038

逸

FE00

CID+8633

逸

FE01

CID+8633

第五章

夏目漱石

君釣りに行きませんかと赤シャツがおれに聞いた。赤シャツは気味の悪いように優しい声を出す男である。まるで男だか女だか分りやしない。男なら男らしい声を出すもんだ。ことに大学卒業生じゃないか。物理学校でさえおれくらいな声が出るのに、文学士がこれじゃ見つともない。

おれはそうですなあと少し進まない返事をしたら、君釣をした事がありますかと失敬な事を聞く。あんまりないが、子供の時、小梅の釣堀で鮒を三匹釣った事がある。それか

坊っちゃん 文久明朝_tate

ら神楽坂の毘沙門の縁日で八寸ばかりの鯉を針で引っかけて、しめたと思ったら、ぼちゃりと落としてしまったがこれは今考えても惜しいと云ったら、赤シャツは頤を前の方へ突き出してホホホと笑った。何もそう気取って笑わなくても、よきそうな者だ。「それじゃ、まだ釣りの味は分らないすな。お望みならちと伝授しましょう」とすこぶる得意である。だれがご伝授をうけるものか。一体釣や猟をする連中はみんな不人情な人間ばかりだ。不人情でなくって、殺生をして喜ぶ訳がない。魚だって、鳥だって殺されるより生きてる方が楽に極まってる。釣や猟をしなくっちゃ活計がたたない

[凸版文久体とは](#)[凸版文久体をつくる](#)[凸版文久体の特徴](#)[インフォメーション](#)

凸版文久体のあゆみ

凸版印刷のオリジナル書体〈凸版書体〉が生まれたのは、1956年（昭和31）。書体設計士・二瓶義三郎（にへいよしさぶろう）によって金属活字として設計されたその文字は、それまでの書体に見られた筆の運びとは一線を画す、ペンで書いたような親しみのあるデザインで、書籍をはじめとする多くの印刷物で使われ、読まれてきました。

「読みやすさ」とは、一人ひとりの個人的な感覚ですが、「文字」によって情報の咀嚼が行なわれる以上、私たちは文章を読むとき、無意識のうち文字のデザインに影響を受けています。

凸版書体もこのような前提をふまえ、「文意を受け取りやすく」「見栄えがよく」「子どもが間違えて字を覚えられないように」など、さまざまな想いを込めてつくられました。

1969年（昭和44）には、他社に先駆けて活字からビットマップフォント（CTS）に移行。1990年（平成2）には、書体品質向上のためにアウトラインフォントとしてリニューアルし、2005年（平成17）には、DTPでも活用できるようにOpenTypeフォント化するなど、凸版書体は印刷技術の変化に対し、つねに柔軟で現代まで受け継がれてきました。

そしていま、電子化の時代を迎え、60年ぶりに凸版書体の大改刻を行ないます。字母と呼ばれるおもとに立

↑
ページの先頭へ戻る

■凸版文久体の情報

●Webサイト

<http://www.toppan.co.jp/bunkyuutai/>

●Twitter

[@toppanfont](https://twitter.com/toppanfont)

ゴ清聴ありがとうございました。